

'86 シーズン

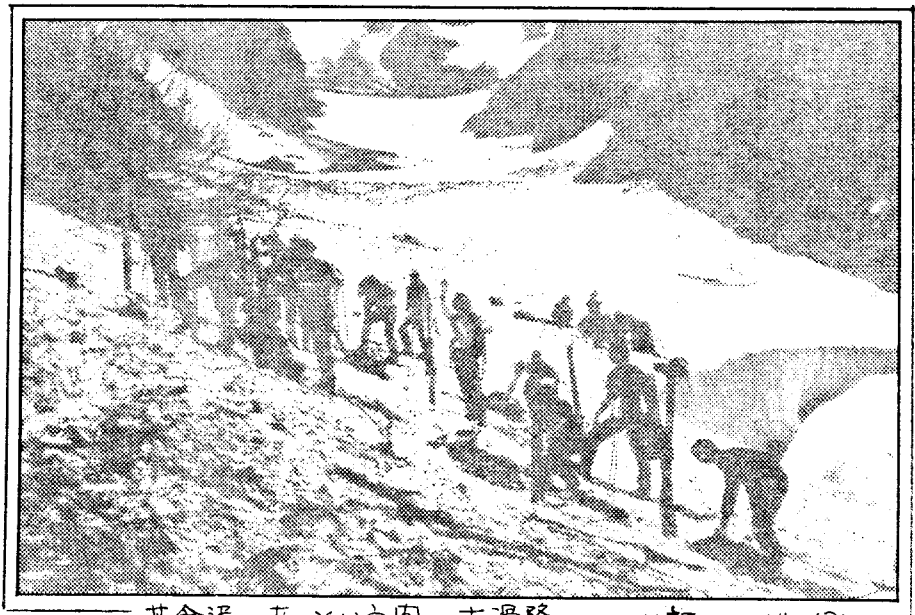
納会 - 芝倉沢 - '86. 5. 17-18

メンバー：館、小森宮、菅沼、高野、古川、陶山、猿田、蔵田、  
角田、加藤、矢野、手塚、西川、島田、佐藤(正)、南藤、  
高橋、井村、岩、石部、(ス保田、生井) 22名

天候、残雪共に恵まれ、シーズン最後を飾るのにふさわしい  
コンディションの下で実施でき幸だった。ただ当事者にはな  
らなかつたものの、遭難事故に遭遇してしまい、そのために  
若干の影響があつたようだ。

夜の宴会では陶山氏自慢の山菜の天ぷらが華を添え、  
大変盛りあがつたようだ。

2回登った人、ビデオ持参の猿田さん ご苦労様でした。(SUGA)



芝倉沢…あつという間の大雪降…いい顔のメンバー(?)

# 初納会 芝倉沢

今年の3月に入会した私にとって最初の納会であった。「納会とはなんぞや？」と期待しつつ上野駅でいつもの越後湯沢行に乗る。さすがに今回は参加者が多い。皆とワイワイ話しながら土合へ。駅の待合室で朝まで仮眠し、ベースキャンプとなる芝倉沢巡視小屋（虹芝寮）へと向かう。道は新道へ入り湯松曹川沿いに進む。今晚のおかずにと山菜を採らないが中々見つけられない。普段、山菜に注意して歩いていない私には何が何やらさっぱりわからない。それでも陶山さんがよく知っていて、イタドリ、トリアシシヨウマ、コゴミなどが採れる。そういうする内に虹芝寮に到着。テントを張る。一休みの後芝倉沢へスキーをかついで向かう。芝倉沢出合付近は雪も多く、ここよりスキーを引かず登り始める。天気はうすぐもりで暑くもなく寒くもなく快適である。上に行くにしたがって各人のベースの道は違ってくる。私を含めたグループは稜線まで登りつめたが稜線直下の斜面は斜度もきつくと大変だった。稜線に着いた頃かすがのま出たし早々に下る。登りであれだけ苦労した所もスキーではあつという間である。登りの途中で注意しておいた岩や雪の淵を避け滑る。正面には朝日岳〜清水峠周辺の稜線が見える。出合で時間をとりこれたりやブコキで苦労したりしてテント場に帰ったのは4時頃だった。夕食は芝倉沢へ行かなかった高野さんや、早く下った陶山さん、小森宮さんが採った山菜を材料にした山菜料理（おしたし、天ぷら、和之物）がメインで、できるそばから皆のハシがのび、すぐになくなってしまうようだった。（私も負けず食べたが、中々オツなものである）陽が落ちるとたき火を中心に皆で車座になり飲めや歌えやの大宴会で時を忘れて楽しんだ。

翌日（5/18）は青空が広がります。早朝に合流した人達と再び芝倉沢を登る。昨日登った所なのでベースも遠く稜線まで登りつめる。かすもなく周囲の展望を楽しんだ後、思い思いにシュプールを描き出合まで。テント場まで戻りザックを背負って土合へ向かう足取りは楽しかった。納会の味をかきしめつつ軽やかだった。

<井村>